毛毛花

上

L121
モ
1

我ゞの師なる大人はつみらぞゑふけ葛兒
さしも越るはさしはさ可しくあまく〳〵酒の
に就きし皇國の雲のをしへのめし價なき
寶とふべき寶にしあればものにくらべてかけ
末久も安やかにおはしまく神随御國は満ちたるに
たゞよ美味をきこえまぐはしく可貌直靈之
むかしよりて醉人の見るおもむきをり狸言いひなすつが

○くさはな

○

三重縣師範學校圖書
縣 昭和 12.
12626

ずいぶんわるいことをしたものだ
いまでは義理をかいて
へらずに大の人でもゑんてきの
くふうかくばりをするものもあり計るかる
をもるが少なくのこりの人をくの
おもまてまてまとめたくまつ
ぶんごとさるもどうぶ

尾張の殿人

市恩為氣彦

享和三年正月

市崗孟彦藏板

くもぞぞ形上つ巻

或人まゐらせられていふ書を作りて。余が乃ゝハせる道の論此書直霊と名づけし事しるし
を難じとり。其書は大名況考るふ。此人いさゝか皇朝の学をも
好むとハ見えられども。儒者ふて年来ゝゆゑ漢国聖人の道をはゝ
そる況ものふ思ひなをとるるれふ。皇国の古へをも。ゆゑその漢ふの之況以
て定めんとするふ。余がいふる論の。いゝゝ之ゝとゝかゝりて。はは聖
人乃悪きる況辨じおどしゝる況見て。大きふ怒まるふより出ゆゝ
るものなり。そもゝゝ天下の学者。千有餘年ゝは漢籍の毒酒を飲
て。その文辞乃口ふ耳義きふふけ生て。ゆれも皆醉乱しるゝ況ゝゝ
ゝおぞれ。だゆゝ直毘神の御霊ふとりて醒さる人見て。これを出と

せざるなり我辯ることをしらずいよ〳〵狂言をたゝかつていさ
ちの醒人と云る人ありて牧の毒酒をすゝめ飲ぜていよ〳〵辯こゞれたゝ
むることのうれしさ見るふえゆへざるれふ嘗て醒よと揉ゆて来りる
こゝの葛花ぞ。

○まゝ此ことふいたく老莊が説タル自然トイフモノヲヨシト思ヘルニヤ。
イタク聖人ヲソシリなリシヲ。

○まゝ此一言ふて維者此固陋なるをどおしたりまゝ聖人を
議らるものハ老莊が後より和ハ行こまゝ記ものと思へるふや老
莊が説をよしと思ハ孫バこそ聖人あしくハなどゝられ況辯ぜざん。
こゝ〳〵その辯じるが同じくれバこそふそれが後のやうに思へるなり。

孤云へば。家ふけて里中ハ焼亡のあるゆゑ。近記ありしハ悪変をうち
ゆくる軍まぎれ。ありて出てその火を救ふ。次ハ里人ゑうをゆめつけ
て出て同じさゑふをうゆゑハ隣の里人これを見てあやまるゆゑ。あ
ゆ里人の悪変をうちと同じさゑに火ゆゑ救ふゆゑハ。ゑゑだくをうち
乃友なをりといへるゆ如し。聖人の道ハ焼亡ゑ。老荘をゆゑ。
ちなり。余ゆ直霊の骨ハ里人ゑ。雑者の今の言ハ隣乃里人の思へる和
ゑ。そもそも老荘悪変をうハ見られた火を救ふハ苦し。それと同じ
さゑふをうへハ。そ。ゆ軍ゑといたんも。ゆゆ。ゆゑ。ゆゑ。

○スベテ言ノ伝ヘトイフモノハ。ゑ。

○ゑを以ていひ伝へること。文字ゆゑ出伝ふることをゑ。べいたんふゑ。

互ニ得失ありて、いづれを勝まさりたる定ハなが〻紀中に古より文字を用ひられる。今の世の仮名をもて書る時ハ、言傳へのごとくんハ、第乃事おぞつゝなるべしれば、文字の方まさるゆまに、べしと、況も思べれども、上古言傳へのごとくなりし代の仮名ありて、書れば、世ハ文字をもて事とすべきことハなし。これハ文字のごとくに、器も何も、古へハ言なりし物の、世に流布まるゆ新ハ出来て、次第ハ乃使よ紀ゆにありゆくめるその新しく出来始めるあも、年を経て用ひられてのち、ハ、あるべきむ昔ハさして不便なりつゝ、と思べども、言なりし、若も、ちゝにたるハ、欠ざりしに、文字はうへ、ハ、皇国ハ、漢字なり、片仮字あり、平仮字なりて、三ツの内一つもなりてハ、ハ

よりて不便なるを漢土にハ片假字も平假字もなけれどもさらり
是なくて不便なりとハ思ざれど。又ちかき紀布へ大切乃用事いひやるに。
口上(コウジヤウ)にてハ遠(タガヒ)ある故に書状にていひやる。是も文字の徳なり。然れども
又書状にても分(ワカ)りがたき事もありて。口上によりてハ使をも出して委細
するハ口上にていひやりてよく分ることもあり。これハ又言傳への徳なる
ぞかし。されバ書ハ言を尽(ツク)さずと漢人(カラ)もいへれど。これをもて見れバ上古
のことも後まで言傳へのまゝなりしかバ。返りて精(クハシ)きことも味も傳はるべきことも中々
に文字傳へになりて失ぬることもあるまじ既にあれど。總て得失をいへ
ば。たがひにくらぶべきことを今雑者。言傳への方よりも失をのミ挙て。
得をいはざれば。文字傳への方にハ。得をのミ挙て。失をいはねバ偏なるぞ

や。云伝へハ実なるものゝ遺るといへまた伝失ハ文字伝へかたも同じ事
へ。文字かたも虚を出伝ふ事ハ実ハのこるべし。言かたも実をいひつゝへバな
どゝ実の遺ざるん。又云ふ伝への誤をいひつゝハ。誠ふさるゝこゝかたて文字ハ
不朽の物なれバ。一ゝび記し置つるゆへ。千年以後ても其ものゝ遺るを
文字の懐し。然また文字なき国ハ文字なき国の伝なるれふ。言伝へとても文
字なる国の云伝へとハ大ふ異なりて。記すことさゝふなし。今の世ゝそれふ文字
知れる人ハ。筆のゝ以文字に記すれふ。元ふハえ覚て居ゝぬものを。文字を
解ぬ人ハ。返りてよく覚え居るゆえ。ちゝ。殊ふ皇ふる。言霊の助くる
ふ言霊の幸ハふふと古説ふもいひく。実ふ言説の妙なること。筆ふ
及ばれゝるをや。

○上代ノ古ヨハ後ノ天皇ノ御ヨニ令成ツル秘ヨナリ。

○はこゑふ令成つるとハいひざゑうやゝそいらるゝことゝも分ヒぐゝ紀を雅者乃
加波おゝたくるふ此後ハ應神天皇の系文字おゝし学この古ヨハ皆その後の
天皇の所加ゆそよ紀さゑふ造ヒ成ゝ給るゆふて実の事ふハあゝびといふ
ことなり。ゆゑゝこゝものゆゝりに天照大御神の大内光波頂ふ蒙ヒるゆゝが
る邪説を吐出ヒべきゆゑ文字ゆゝそそ要のヨハ消ぬる例の中へやを。
何を據ふいつる漫言で傳ゑふハいまゝ文字の出来さゆしいゆの上古のヨハ
さゝうゆる偽へゆゝてよろゞ志ゞゆる紀ヨのこゆるれふその例を思ひ
て。ゑ皇ゑの上代も同ゝ様ゆるべき理そと思ひゆづ見るゑゞ加ゆりて。
それハ正ゝゝゝざる方波規矩ふして正ゝ紀方を改めんとゆるゆ

ふていたゆる杓子定木(シャクシヂヤウギ)へしたるふ限らじ儒者ハもてづく伝るゝ皇国の正
志をもてをばえらびまへでして返りて漢国の邪(ヨカ)なるゆゑ正しと思
て接とするハこゝ彼国籍の毒酒ふ脳(ナヤ)まされしある狂公(タワレビト)なりいでゝ彼
こふ式菊花を一ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ碎(ヒシ)をさゝめて聽(キ)ゆゑ皇国ハ
天地の判(ワカ)まし始よりして国古日月万物の始めでまをしたるの詳り
伝りきぬるハ天照大神の御生坐(ミアレニセ)るゆ国として万国ふ勝(スグ)れ人の心
も直(ナホ)りしゆゑ且ハ中古ゝ中ゝに文字といふものさゝしつをくして
妙なる言霊(コトタマ)の伝へりし徳とゝもいひつゝし。ゝ国も大古神の古国
なゝびして万国のゝゝとより皇国ふ及ばざるべきことゝりなれバ上古の
伝へるゝゝさゝりなゝ所るなり。然まゝゝ皇国の如く正ゝくして八伝ゝ

称ずるもいづれの世かかくの如くかの〳〵偽をそなへて法律をそなへ法
をつくる故聖人といふものまづ〳〵きはめ出て已が限ある智恵にて天地の
始をも何のものをもこゝろかふ〳〵さとり定めて上古よりの偽をバ虚誕なりと
どひてく全用のものとしてとりあげぬ故りこれをもにせ〳〵れふおのづから
その偽をもハ失ひ(ウセ)ぬ〳〵なり中ごろ周公旦といひし者殊ふかくこゝろきはめ
こゝろをいよ〳〵私智を用ひて恵徳をこゝろむること故好こと故世内の人こゝろを
ものに成よりこれをもにもひつゝおとゝくその風俗となれるを〳〵れふ周の代ふ至て
上古の偽をもハ大ぶ失ぬ(ウセ)さまでなれ〳〵ふ人もしゝ〳〵ものこゝろをもつ
ものゝ虚誕といひなして一向ふ取あゝる人もなく成ぬるハいと悪
きものふ人をもりるそもく〳〵かくのめく古の偽をバ用ひゝ世已がふ

まうせて物を定めんかいまのうはいうとあるもいひ曲べきもの入今は雖者もだ
ぶるの聖人はのをかくしけるものかをしるしるし伴の悪風俗をよれるかを
ひひて返りて皇国の正しき俗をいひ彼らんとをもりうれ国人れはは正
しき俗をおぢれば・やうの国俗はよれるかをあるもさることるをを皇国
の人を正しき俗をまたしく学ぶるうれ悪風俗かまぐるはいかを
ぞやかくいひてもるかを醉のさをぞば今一もしは葛花はるを先てよそも
おもも雖者後の天皇の上代の古ふをよく造りるしるるとは應神天
皇より天武天皇まで三百年の間は漢国の書籍をよく讀て聖人の
道はは学ひはるるるといるもしは況のめく漢国聖人の道を
学ぶはるるかよりて上古の事はよく造りるるるるばそのうも

こゝろ伝もこゝろ氏舎人親王の書紀の文章をゞのめく像格(カラヤウ)ふるひて、
かゝることゞふて造りなびきこゝるふ像格こゝハ大ふ異ふして、反りてふ聖
人の乃ふ虚誕とて取あげぬ事のゆめ〳〵神代ふハ多きハいふ、ふれのふの
書ふゝ〳〵造りるふ〳〵ゞる伝なり。又天照大氏神の皇孫命に授け
給ふる御霊の御鏡ハ今も現ふ五十鈴宮ふまし〳〵、茅葺の氏劔ハ熱田
宮ふまし〳〵まゝてゞひ、神代の遺跡今多ふ西〳〵ふ存〳〵又神武天皇より
こゝ世代〳〵の山陵をゞも畿内の西〳〵ふ現存〳〵朝廷ふハ神代ふ遺
事ゝもこれかゝのゝり、又中臣忌部大伴をゞの氏〳〵ハ神代の職をお借て、
後〳〵までも連綿せるをゞ皆その古ゆ乃実なりる明證なり。かゝの
めく法ふおかるゝ者ふ於ゝ事、又諸家の系牒をゞまでも像ふ造り

設きゝ〻ゆふハ行〻ぬをやゐ行藤ゑ毛などの名部の子孫も国郡の制も何
も何のとゝ毛く代〻ふかりゆく薄悪の毛乃例とハ年波同ドくゝそもい
ひゞゝ記ゐなり然るを雑者なゝ蕪智波めゞしゝて其きゝ行きゝ事又子
孫毛どのあるふよりて其毛ふ當まる古毛波バ造れるゐなりともいもんゝ
ゝれどきゝ行きゝ事又子孫毛どのゐりしゝへハ古毛の見ゝ毛毛波ひな
記を文字毛記せなりしかふその実乃古毛ハ皆偽ゝゝで後ふまゝ別り
ゝれを造るゐやゝ毛ゝバ上ふいてるぬく藤根ふ合ふやゝふゝて造るべきふ者
てゝハ行〻孫バ毛ふくゐ雅者の伝ハ皇神の道を主ひくいひ破らんと
ゝる妄言なりと思べし。

○天照トイフ御名ナドモ天津日ニ配奉リタル義ナラン。

○これハ近世儒意をまぬかれぬ神道説をいふとなれど例の漢ごふ
をぶるものふてりがふ祖宗を天に配するをいふべきなり手本
ふしるるをがあとなり皇国がふ一つハさかのまがくハしき強るハ
なれなり

○強テ日ノ神ハ即天ツ日ナリトせバ云〳〵未生レ給ハヌ前モ常夜ナル
べシ云〳〵コレニテ天ツ日ハ天地ノ始ヨリ天ニカヽリタルコトイチジルシ

○まが強くとゝるとまんなを日ノ神ハ即天ツ日ふまゝまれるハ古ヨリ
記書紀ふ明〳〵ふ見てて疑ひ給ひを今雅説のさハ云〳〵とゝ云ふ返
ス〳〵強るふハ見られそも〳〵此日神ハ天地のきハみは照まし
ませたその始皇ふ成生坐てその皇統即皇国の君とゝて今ハ

四海を統御し給つゝ。さて此神天の石屋戸をさして隠(コモ)まし〳〵時ハ。
葦原中国常夜(トコヨ)なりしかいまゞ生坐(アレイマ)ざりし神の常夜なりしハいかゝ
いふことハ児童といへどもよく心づきぬ。然ふことなる波今雖者(ヲヅシ)
ぞかゝるぐ〳〵しく。いひ〳〵そなるこそ稚(ヲサナ)なれ。此一つを以て。返て神代の古
事ハ。其実ありて虚偽なるこゝ波さこそやしも。後の天皇の造
事給つるなんかハかゝり後世人ふかくて。人の信ぜまし記る波造
事なんや。此不ふよくを心をしぐめて味ひ尺よ。よく〳〵神の御所行ハ尋
常(ツネ)の理をもて。人のよく測(ハカ)事知(シル)ところにあらぬ。人の智ハいかゝしこきも
限りありて。小き物にて。その至る限のみのゆハえもつぬものなり。さてその
神のはたらきぞハ。直なれども。返て後世ふかく。偽のゆゑに思ハるゝハ人の智

の測知る限と遥かへだゝもる処なるかふその説を学人のかふ疎く(ウト)なるく
て入ゞゝく伝じがゝ記なり。漢土の説ハ三ゝ安なれども。もと人の智の至
る限をもて測を設けてるゝなるなふ学人のかふ測量の処と新し
く近くて入やすく伝じやすく記なり。然るふ漢土の人ハ聖人の智ハ天
地万物の理を周く知(ケリツリ)盡せるものと心得るゝ。そのさゝらゝ波千
かとゝ。己が限あるふ智をもて知ゝ記るをも強て(シヒ)もりもて人
ゝるかふその理の測ゝゝ記るに至てハ。ゝれ波伝せゞ。かゝてそ
の理なゝと定むるハかゝゝこゞふハ学ゝゝゝゝ。返りて己が智の小さ(イトサ)不
ごをゝゝゝゝものなり。雑者ゝろこふゝゝゝゝ件(クダン)のゝゝひを忘れ
てよく思ひ合の観ひあのづゝ解(トケ)なん。抑伊邪那岐大神夜見(ヨミ)

あゐ行坐るはりハ闇くて燭を燃し給ひ孔あり坐はハ給ること
なれを思ハば黄泉ゐも闇くべき所以なて闇く孔あハそのうゑゐ
明くべき所以ありて明りしなり。さく日神もいまゞ生蛍ざるり。
孔あハ明りし。その給る所以の理ハもとよりこれ測ゞたところ
なり。書紀の纂疏などハ劫初の人をおの〳〵身ゐ光を常て照せ
るゆゑ引て泥せられたれハ佛書の説ふそのゆゑ神代りハ
蛍火光神なでハのゆゑたそれハ邪神のゆゑれバなべくの例ゐ〳〵ぞ。
ゆゑゐハ身ゐ光のゆゑしゐ偽ものゆれど。伊の明ゆて照せりそ。
知べきゐ〳〵ぞ。人のえ知ぬ思ひのゐは理ありて明りしるべ給
ゞ日神のれ石屋戸隠ゆの時ゐ常夜なりしハ又いふゐ〳〵ゐ既ゐ日神

生坐て天地の間ハ此神の照しまもるべきあと定まりてのち人もその大れ光
りかゝるぞれば明(アカ)き成はざるなり。これハ皇孫命天降(アモリ)坐て後ハなが
く天と国との往来(ユキ)絶ぬると同じことわりなれ。これらの又後の所以(ユエ)の
理ハたゞ記とゝろなりけれども神代かハいと奇(クス)しく異(アヤ)きまのゝ
多れど皆なぞ〳〵へく解(トク)べし。凡て上古の人も神のたゝりをぎを己が智
をもて私ふその理をば成もるこゝハ形なし後世の人はかゝる浮世
人のなゝひふるりてさゝらば成のゝ好むハ一とゝろハかしこぎふ学ゆれども
実ハ返りて愚なりその外ハ神代のまゝ奇異(クスシヒアヤシ)きハ人の代なるまゝ同じゝ
ぞるれふなやゝ新ふるまれ実ゝ人の代はるまゝ志をしてうゝ此奇異
き成それハ今の現(ウツ)ふ見なれ学ゆまゝく常ふまゝ中ふ形るれふ奇異きこと

をかぶりさるなり。まづは天地のなるやうは。つゝ。ひめぐりて凡よび大地
も空ふりゆんの物のうへふ著なんらいづもふりてもいとく奇異きあ
なり。もゝあのうへふ著くりとせばそのあのトハ又何あふて支へさりとうせんば
理さゝふやぐゝ。ゐふ滝あふてもさりくの説あれども日本えハこの奇異き
をこゝ中に地球を囲躰すして天中ふ包まれて空ふりゆりとる渾天
の説ぞまことしきぞふやゆれた。最者の理ふ以て凡ものいふ天の気乃
充満(ミチく)あれバこそ。此ゐ古大海なゞこの空中にうまて動らぐゝ。き由なりれ。
日本えハこゝもこれも又奇異ゝゝぐるとなくゝ。又天ハゝぐ気のこゝふて形ハなゝ
物とちるゝこゝも又まことしげふやゆれた。もゝあ。地かハこゝの気なるをそ
の気ハ際限なりゝやせんなりとやせんもし際限なくばゝづれの処を塩ゝゝいづれの

処を中とも定むべきふ所なるふ地球の止まる処あるハ人ぢとも云ふ所中
ふ所なるべ止まるべきなることなりなればなり又際限ありとせバそ
の氣も又一弾丸のめくるべきなれバ何のもの処を処と定めて凝聚するも
とせん又何凝聚ら志むる物ぞ何物とせん又いづれかしてハ是光
も奇異なるべきことあるべかくのめく大ふ奇異き天地の習ふ至なり
そのなやしきをバあやしまずして神代のふ説のこなやしみてさる
ことハ決て学記理なりと思ハ思ふあるべそ何ぞや又人の氏身のうへを
も思ひ見よ目ふ物を見耳ふ物をきて口ふ物説ひ足ふくなる記手ふて
業のるぎをとるるこどひも皆なやしく或ハ虫の産説ハ草木の花記
実のるなども皆なやしく又生物の物乃ぞ生物の虫などに化するたぐひ

狐狸のるゐ人の形に化するたぐひなどは、あやしきが中のあやしきなり。されど此天地も万物もいひもてゆけばことごとく奇異ならずといふことなく、に至てハ、かの聖人といへども其然る所以の理ハいかにとも窮(キハ)め知(シル)ことあたはず。是をもて人の智ハ限ありて小きことをしるべく、又神の御しわざの限なくおほいなる事をもさとるべし。然るにかの聖人の己が智の至る限の内乃事を知り明(アキ)らめおはしたるを見て、天地万物の理を周(アマネ)く知尽せりと思ひくむるを伝(タメシ)ふるハいと可笑(ヲカシ)くて、そもそも又かくのごとく大きなりあやしき天地万物の始をも、又いとく大にあやしき神の御しわざなるをバ成然るべきことと思わなるに、此始めをしも漢人ハ例の陰陽を以て説るなり。されどその陰陽も又然るべき所以の理ハ知ることあたはざるにあらず。是くも早

竟ハいかやしうゝぼるゝこゝ成ぬるもゝ又天地ハ始なく流もなき物ゝいと
むゝ始なくゝてきひ物のあるハ又いよゝいかやゝゝゝゝ成や雖老上件のゆえを
よく考へ見て今の銀ひハおのづゝ解なん(トケ)ば解ぬハ(トケ)ば解ぬハ(トケ)ば解ぬハ(トケ)ば迫きゆをきて
拵さとさん(ヒキ)蔵(ヒキ)鞦(ヒキ)などハ雷申とゝへ物成るゆ白昼ハ異なゝゝゝゝゝ
ゆ伊の明(アカ)星ハとゝろて見るとうせん又夜ハよゝ物をみゝゝ昼ハ反りて見るを
ゆゝハざるもなりこれハいよゝ易常ハ理ハて推(オシ)ゝぶるとなゝゝゝゝ成や雖
者神代の明(アカ)星をハ決てをき理なりとゝひゝゝ雖(ナン)ぬ成ゆゝの明(アカ)星をハ
をき理なりとゝひとあゝハゝゝいゝふゝゝかゝる微(イヤシ)きゝる歎ぬ理ハのゆあ
るとかゝのめゝ況や天地の始め皇神(カムロギノ)祖命の御(ミ)うへふ於(オキ)てをや
○ハ二銀フベキハ神代ゆ二星ノゆヲイハザルハイカニゝ

○書紀神代下巻に星神香々背男（カゞセヲ）といふ事を星のうをといふ事といふ。但し此雖（ナヽ）は星神の姓をいふべきにはいふといふことを知てゆるべし。此もたゞ星を雖ふは例の傳ふるごとく光るものなり。その中には異なりて星を日月なりとて三光なりといひ、いまゝきなほられも星の古は始めは星はさらに日月なるべき物なれば天にあくがれて見えもたゞ世界なりと同じなりとしてその姓なりと成語を作るなり。所なその名もなり香々背男とのいひし神とも命とも尊とも稱する所なり。此星も大抵これに准へて其の微賤（イヤシ）きを知べし。天之御中主神なども星なりとのたまふ（トキ）説なりなどあれどそは例の傳ふるごとに加へつゝ私（ワタクシ）なりとさしたる由なきものなり。神代のことなれば人の代なりとも異なる書の人なりしし

以あかハ星のゆをさゞせるゆゑなり。況やこゝをを祭星なゞもるてハこゝ
ゆゑなりき。天皇元且ハ屬星を拜ミ給ひ。又三月九月三日北辰御燈なゞも。
や後のゆゑなり。齋内親王群行の年ハ京畿伊勢近江路次の函北辰を祭る
る波禁ぜらるゝ。又延曆十五年ハ月べくこれを禁ぜらるゝなゞ也。あ
るゆゑ。なるゆ雑者。これをハ日月ハ星なるべき物と思ふハ佛法ハ
ゆゑなゞ。狂いもゞ。星の路をいもゞるハ返て神代の傳ふの正実なる徴と
もゞ。也。雑者の僻見のもく。上代の古ゆハ後の天皇の佛函聖人の道ハ学
ばゝ。その御心もて造り給ふ物なるべく。ゆゑ。ハ日月星なるべく。
星神の路を。日月の路のもく。造りいもべ記るゆゑにこれ波いもゞるハ佛法
ゆゑなゞハ。上古ゆりの傳へのまくなるゆゑなゞ。

○学問スル人ハ、ラ〳〵異国ノ物トハ異ナルガ如クニゾイヒナシケル。

○世ヨを天地のかみおんことをいつること、まかもろこしにハいろはるる波いつるあり。分ぢ〴〵ことをつ〴〵お後の説を考へておしえるゐ天照大御神ハ即天神日ゑまし〳〵く世ヨを生ませゐゐるをいつる波かくハ雖ぜるゐやゞ自ハ古ゆ記日本紀ゐあれ〳〵ゐ尺ていくらゐ新ひゐれるゐるを余ゞ新説のめくゐいひるせるハいゐ。そべて世雖者の眼ハ淳さの毒酒ゐ〳〵まるれて〳〵古世の説も分ぢざるゐや。但し世惑ひハ世人のこゐもなり。

近代の神学者流も皆うの毒酒ゐ醉て天照大御神即天つ日ゐて皇ヨ生ませゐること波新ひて、ろ〳〵にいひまぎゐるも説ゐ古伝の旨ゐ北月ゐり。余ハさやに古伝ゐ考むる私ハんてろ波。そろ〳〵天照大御神

と申すなるは即天つ日の御子にて皇国に生まさせ給へる事は今さらに委く
申すにも及ばず。然るを外国には古正しき伝へなければ天地日月の始をもいひな
るすべえしらず。然るにハ盤古氏の左右の眼日月となるなどいへるいさゝか
の古伝ものこれども。たゞしらぬのみぞ尊む国俗なれバ。すべて外国の説
をバ虚誕といひなして。一向にとりあげず。又己が臆度を以て陰陽の精へ
などいへるものなり。又彼盤古氏の眼の説などハ。伊邪那岐大神の大御眼を
洗ひ給ふより成出坐る伝へのおのづから外国までも訛りて伝はりゆきしが。
わづかにのこりしもきこゆるなれバ。中々に外国の臆度乃説よりはまされり。学問
する人ハまづその心を天地の極みにおしひろめて。私心を除くべしと。みづから
いひながら。雑者の心をいと狭くして。又漢国の内にのみ縮まりて。その他を

つやく〳〵えたり〳〵ぬ私公なり。こたハ。あで漢学人の見解をのミ手本(テホン)とし。そのの
餘(ヨ)ハ。ゐ況やあと公なて。皇学はこと況えたり〳〵ぶれバなり。まづ。その務劣ハ姑(シバラ)く
はしあれとく。これハ漢学のこと。これハ皇学のこと。二川ふ分て見よ。漢学乃
こと。ゆ見るとハ。皇学のことハ非なり。皇学のこと。ゆ見れハ漢学はことハ非へ。
始るふ雖者。漢学のこと況のミ立(タテ)て。そのこと。を以て。皇学の古へをも。ゆ〳〵況し
ふあさんとする。ハ偏(カタヨ)まる私公ふ。ゆ〳〵ぶやかくいたぐ又。天地ハ一枚なるハ。漢
学のこと皇学のこと。ゆ分(ワカチ)あること。ゆ〳〵分(ワカチ)をゆるぐ狭き私公なるゆし
ゆべ〳〵れた。雖者の漢学をのミ立(タテ)て。皇学の古へ況。新ふも。即(ナワカチ)分をゆて。
漢ふかこれる。ゆ況。新公ハ天地の極(キハ)ミ満足(ミチタラ)ひるゆと。ふハ。醉人(エヘ)の醉
ふこと況。ゆ見てゆ。ゆ見ることゆ〳〵ふ同じ。そもく聖人をそるミ

なぐ〳〵は孔丘が尊内卑外のことふる大きふそむりゆゑ彼此乃
差別なくば善悪をその善〳〵の位へるなり守ることもあることなりとばかり
その悪乃位へふるなり己が悪のことは守んこそ頂なれんゆゑ悪をえ
善ふとぐりて古への位へも又正〳〵その道ハ殊ふ善悪をは照〳〵坐
大比神の道なる物ゆそれを〳〵棄て由なれ化悪のことを守至て返
まく吾が古位は虚なりとしるもるハいふ形る逆の曲がそや又お後そろ
そな狂言なりといつるハ善悪を日神の御徳を蒙るといひなぐ〳〵吳悪ハ日
神のは悪ふなの〳〵といふをお後お遠せりと思へるふや日神の悪ふあば
といふハ日神の生坐るは悪ふなの〳〵といふことなりその照〳〵ぬ悪をいふ
ことふあ〳〵ばとべてその生ることなる悪ふを善悪をとのこいつふそつ祢乃

ことゆえ、唐国へ渡る船、国へ帰るといひ、唐国の人船、国人といふ類、なほ多し。
又天日を異国の物とは異なるがゆえ、ゆゑなしとなるは、何のまりも思なる
論なり。日神は此国に生坐て、我国を照しゐたまふは、何ぞ異なるがゆえ
あらん。然る説異なるがゆえいつわと思ふは、本末深き国の説ゆゑなりとする心
ふ。始て天つ日は此国に生坐ると説たまふといふ説は、其ゆゑ、きこえ出るゆゑ
なるべし。鎔たゝめて石などのごとくひふ堅ゆゑとのゝ人なる者の鑄物
師の湯ふ沸(ワカ)しゐるゆゑんて、大ふ驚きたゆゑしめるがゆえ。又天神は異(タヽミ)なる
一切ふんそなはり、先ごゝまれなりといふは、さることなれども、其中に此国
国は天照大神の生坐る本つ国ふして、その子孫の知者(シロシメス)国なれば、
づ吳国ふまれることゆえ、日の説なるべしとなるべし。

○聖人ヲバ千万人天ノゴトク作ギ立ル

○これハ儒者のよく乃人を聖人ハ欺くるものハして実ハ是ハ儒者
てもあること知るべし。もし聖人ハ作ぎ立を以て実ハそ儒者とせバ今
一向宗の徒の祖師親鸞を作ぎ立るもよもあるハ儒者の聖人をそむく
ものも狂たるふまちがハ親鸞の徳ハ聖人より勝れりとせんか又いざなハ
ハ儒者も群来といつるも大きなる虚言なり。さて儒者ども聞くいざなハ
乃道を後つる人ハ孔子孟軻がめき法をなるきそ。妄言なりいざなひ
つるとハ一言としてむなしきをいふとなせん又こそべハ法人の群集るめくハ
人ハ言ハ餘りなる文章と口さ記だらなり。聖人ハいさく巻とて
道ハ後へるさるハ人ハ賢者のめくハ生ゆる所ハ誰も文章などなり。

是をそるこぎゝ歩をせた。実ふその道ふまゝぐふ者ハ。彼をふてもよくふいとく
稀なるをや。ゆゑふ雖者。うけかゞれる文章を見て。世人をこ実ふとゝ思ひそるめ
ゝ。ふ呼ふハいと悪なり。そもく聖人の人ふ教ゆ。ゝる処ハ。ゆゑ智巧のこふ
て。実もこなる雁見物なる。そ中に大抵雖のなれハ孔丘なり。け人周の世り
生ゝる。ふ。ふ。ふ。ふ。周室をそるこて。諸侯たの僭乱を欲れゝるなだへま
ことふ殊勝なるなり。ゆゑ聖人も同ふふ儒者のそるむ。うけ孟軻ふ。ふれと
た大ふ遠ひて。王道をひ。ふ。ふ。て。ゆ。ゝ。ふ。ゝ。ふ。そ謀反をゝ。ふ。ふ。ある
き。ハ。ふれ又湯武同なの大悪人なり。

○聖人モシ人ノ国ヲ奪ヒ取ントシ給ハバ。天ツ神モユルサヾラン。ゝ。

○湯武がめきき逆賊のこゝろざハ。決先て天ツ神のゆる。給ハざる処なり。然ルに。

桀紂がゆきき王の出来るも又さる時ふ聖人のゆきき賊の出来て栄ゆるなり世に
者ふ人倫のたてぐふりとふくふ志ふ入れたる所なり禍福日祚のつ〳〵
ぐ日よれる物ふて天つ神のはかふもまもぐこれをもおろかるハ神代なるさ
ふるものなり〳〵物る城陳人ハこの理をバ志ら〳〵ず某のものをしゆぐ天命とふ始
ふ居て聖人の栄えを見てハ天道のゆる〳〵ものふ成と思ふこれ〳〵ふ聖人の
智術ふ欺〳〵とふるものなり

○洪荒ノ世ハ君臣ノ別モナニモナケレバ云〳〵

○もし〳〵洪荒のごとくなるバ人民ふ成ふ者いつふても洪荒の世なれバ誰をか君と
せんといひてくみぐるその君ふ殺〳〵そのふを奪ふべきふや桀紂がはを
洪荒の世とせるハ志ひてく聖人の不義を隠さんとせるものなれども桀

紂実に悪王なりしかバ。これハ殺されといひつべし。然れどその時君臣の別なきゆゑ洪荒の世と見ながし君を滅せるハ。湯武の志ならざれども。又いはく 洪荒の世の志ならざるなり。人の君臣の別なれをバ。洪荒の世の志ならざりにし。己が君を滅せなるをバ創業之といひて。人これを信ぜんや。かゝる姦悪の大賊をそるむ輩人の心をいふぞや。ちくべくんぬるなり。もし実に国を奪ふ心なくバ殷の親族の内に箕子などいふ人もありしことなれバ。これらをたてゝ君とたくべきことなるに。たゞあしくて已が物とせしハ。洪荒の世故幸(サイハ)ひにして奪へるゝ事明らかなるをや。

○湯武ハ即天ツ神ノ御子ニシテ。云々

○天神(ヅ)の御子と申し孫ハ。かしこくも始めて天皇を申し奉るにて。かゝりしハ

決てやまぬことなるを、ろぐ〳〵かゝ国の賊主なしゝもかくいつゝハ名を礼(女)ることなし。

○カノ荒ブル物ヲ平ケタル後ニコソ君臣ノ道モ再ヒ立ヌレ。

○もゝ〳〵ハ紂のめくるゝハ紂を滅すもゝ〳〵ハ文王も武王も君臣の道全ゝ〳〵ざりしゞ紂を滅して後ハ始めて君臣のそとといふをハ知りそめ又ゝ〳〵ゝ已君の国ハ奪ふもゝ〳〵ハ君臣の道なれさるれハ苦しゝ〳〵ゝ〳〵といふて、さて既ハ奪ひをゝせてゝる時ハ俄ハ君臣のそとを立んとせるゝ。又已ゞにハ奪ハさゝ〳〵の巧なるゝ〳〵ハなり。然りとて周の中比なりして、返りて礼ゝの名くなりしハ、実ハ武王そのはゝめ紂いさゝなるものなり。然りとハ聖人のそとハ、ゝゝ〳〵陽(ウベ)ハ益おろれゝゝ〳〵なれとも陰(シタ)ハ害おろれ和と

ちるべし。

○西国三毛和漢明辨トイフ書ヲ作リテ。云〳〵

○此書ハ新刻始なり。余も見てゐれ。漢文ふかるゲ。文ハいとく拙くて。

つゞくゞくれども。倭ハ甚面白し。但し皇国の優れたる由を挙て

称ゆるなれ。皆古へのヨをバ志〳〵ざるものと見て。今の世ばかり

つれく〳〵れば。古をよろこぶるおろ〳〵。漢国の非をいるハ。まことに

○学者ハモハラ道ヲ学バムヨヲ勤ムベシ。道ニ公ヲ向ズシテ。云〳〵

○雑者のくいる道ハ。ただ是皇国皇人の道なり。余ハ吾が皇朝の皇神の道

ふかを向るゝ人ハ。位を戎狄の賊ばらふかを向人。雑者ばらふかを

向ざるを過と思ふハ。皇神の正しばらふかを向ざる已が過ちなることを

ちゝ〳〵ぜや。

○神ノ所為ヲシラザルモノハ凡夫ナリ。云〳〵

○此論又例の〳〵人の私智を以てみぐりふ抽成定むる癖あり。神のをしへ

をもてぐりぐりぐりあるはば聖人といふ知ることあるべし。況やそもそも

智の淺き者をや。知るを神のをしへぐるも理をもて推バいぞう知〳〵ぐんん

と思ふハ大きふ知ごとあり。知りぐりぐりを張て知りふ定めてる儒人の説

も大きふ遠つる知ごゆ多きを儒者ハえゆ凡まぢして実ふ云〳〵

思ひ違ひ云〳〵かる知ごゆハ〳〵ゆ儒ふ思ふト筮とつふゆの古〳〵り

ゆるハ〳〵ふ思ふて凡上つ代ゆハ神の告ぐぐハ知りぐりぐりあと定めあるあへ。

果〳〵て人よくこゝを知〳〵バ易ハ云用の長あり。

○御国ノ古モ須佐之男神ハ凶キ徳ヲ行ヒテ。云〳〵

○禍津日神あれば。神代にて凶きるゝもなどゝ云ふん。然るに異国の乱を考さふ比ふれば。皇国の古も。乱るゝしいえんも可なり。後ゝ波雑者いえゐる毛を以て。疵を求むる。なてのごゝくたまさふ征伐のゆえゝなどゝを川出て。ひゝく出国をいひおとさんとするハいかゝ。然国こそ古より乱ることなくして。治まりがゝうしるハ。此国の歴代の史に昭らゝる波雑者ハ。ゝゝゝ。ゝゝゝ。ゝゝゝ人の国の悪きゆゑをバ隠して。人をなぐむんとするゆゑ。

○東国ハ倭建命の征ヨリ始テ従ヒツルゆゑ人エタリ。云〳〵

○これハ古ゆ記日本紀をも考へ。ゝして。妄ゆいるゝ。崇神天皇の出雲のゆゑど波考へ。ゝよ。倭建命東征のゆゑ。ゝれより以前ハ東国ハ。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ

な孝霊天皇の御子吉備津彦命吉備国を征し給ひ又景行天皇仲哀天
皇の御世に熊襲国を征しめ給ふ熊襲ハ紫の内なれば紫もその
仮あハ従ハぬと云へ共征伐ハその時ふあくゐて背く者のいまだ
○六十国ノ半ヲ治メムニハイマダ教モ道モ備ハラズトモ治マリナン
○是ハ神ふをそなき御なり三十国なれバ〜そなをて治まるべき物ハも〜
三十国ゞ治らぬ治まるべ〜ハ六十国も治まるべ〜いそらその差別あ〜へ
○聖人ノ道ノ系リ来ニケルゾ天皇ノ御喜ナリケル〜〜御国ノ上代モ蛾
夷ノアリサマナリケントオモハル
○此ハ神ふ皇統を守り給ふ先皇の御代をこひて夷島ふ比しる
獣ふ〜〜と云ひて殿さんとせる甚しき邪説なり〜〜〜蛾夷ハ

とり由る人とハ種類の異なる物也。今よりあるまでその形ハ髭(ヒゲ)おゝくあゞ
しゝて。大ふ異なれバ。その心もけひも異なること明らかなり。況ふ中古とも陸
奥出羽などハ。その人おゝくまそ由る人と雜居して。今年に至の風俗ふ
ものれ。又移んごろふ教諭せさせらるしまものそしゝたなふ化しがたう
まゝしとハ史籍ふ往くふ見てあり。これもとより種類の異なりしが況なり然
るふかゝ見ることもくもしくハ考へ出でゝ。ろ彼蛮夷のめくなり人とハ例のふ
しゝなの漫言(ミダリゴト)なるや。雜者のそるむ処の源ふてそ。ふとり見ハ。ゝ殘の
ものもの別(ワカ)ちなし。君臣のそももあゞ。ふ敷ふハ近れ。ふとハくゞけ
なるもの。天照大由神の由ふとして。天皇ハ即大由神の由子ふまして。まゝバトゞ
まゞ人なのゞもの。何も。ふ由ふ傍(ヌダ)りそ。ゝとり君臣父子その餘(ヨ)のものもお

ばづゝ備(ソナヘ)まゝるなり。神さまゝふるゝ所ひゝて教へさとしなり及ばざり
ゝ猛のつゆるゝいろどりかゝ聖人のそこをゝも待(マツ)ことあゝん。吳ゝ大
地神のゝゝゝあゝゝるゝなり。悪神さまゝをえて。あのつゆあゝゝゝゝも人も
治まりゝゝゝなりゝゝゝゝゝの名を設(ヒツ)めて。教へさとせるなりもゝとゝば。
盗のなる郷(サト)ハその防(フセ)きハ用なるを盗ある郷ハ防きなゝてハなるぬ
がごとゝ。薄ゝなゝどハ盗ゝゝなる郷(サト)なるゝ。なるきびゝゝかまへゝ防きハなる
なりゝそ志の防きのきびゝきみつゝて。ハ盗もいよゝ智畧ゝ多ゝゝして。
いよゝ拙ぬてむゝゝ。上手ゝなりゆゝめれゝ。聖人のそこハうハべそ至りげ
ゝゝて。実ハくりて害となるゝ。上ゝゝゝゝるゝごゝゝなり。

○萬ノ国ノ事度(コトハカリ)ハ。独聖人ノ道ゾ勝(マサ)リタリケル。

○聖人もっとも大きなる盗ふて、人の知ぬをよくし、己その術をとく初まる〳〵。
その防きのもっぱらも功者なるはさてもまづきこと なり。

○東照神祖命ノ天下ヲ治ル道モ聖人ノ道ニシテ、こゝ

○此後ハ世代〳〵の天皇をも東照神祖命をも己が好む聖人の道へ引入まゐ
まゐ、まひく方人ふせんと計まる。かぎりなき御まこゝろ。神武祖命の文
武忠孝を勵よがごとくの〳〵ものの。その徒ふ引出るも。誠ゆ強ゆなり。も
ちろんハ或ハ忠或ハ孝或ハ礼或ハ義などいふ。その名ゝを借ふ聖人の始めつゝ先
その実ハ皇ふ逆ふ弑をたりかりて、人ある者ハ皆よく知てはるゆりて。
誠ふこれを教へ諭ゆまでもなりし故ゆ。その名ハなりし。徒ふ聖人の
こゝろ〳〵の名どもをまゝけて、こゝ〳〵いひつるハ。返て流ゆ盗ゆ

しといふものなり。儒者はその名を惑て名なりれをまもるものなりと思ふはいと
思ひ。あやまりなり。佛道は人のなのうちに意といひ情といひ慾といふやうのこと
ばをその名なるに。皇道はまことに許々呂といひて体の名どもはなりしかれ。実は
意も情も慾もみなしらめしかし。雖者のことばどもくばりもれも漢籍にかりもて
て後ふ皇道の人は意も情も慾も出来ありとせんかそれぞれの神は祖命の。文
武忠孝などのことまくるもことで。そのなかひとしかの道は文字を借用ひてるのこと
ふてそのれそのの実はこれ皇道の固有のそなるをや。皇道のこころもあ
ばれ。べく佛道のそとを借らぬ他のものこころはこれそこのかたりなどくり
なることもそのの名にそなりと天竺にそしも哩儒にはの忠烏播迦羅といふえ孝
伊底といふは礼阿羅他といふは義のことなれば。その餘のものこれも准へて知べし。

然るにこれらの類をすてゝ漢土の聖人独り尊き道のやうに思へるハ、又甚しき惑なりけり。さて又聖人を譏るハ、昔の天皇の御心にも、東照神君乃御心にも背ける罪なりといへるハ、一とほりハ聞えたれども、古への御世々の天皇の勅詔にも、東照神君の御掟にも、聖人をそしる者ハ罪なりとハ曾てのたまはぬ事なり。然れバ儒にもあれ仏にもあれ、その非を辨ぜんに何の罪かあらん。もし聖人の非をいふが罪ならんにハ、儒者の佛をそしるハいよ〳〵罪重かるべし。御代々の天皇、又大将軍にも、佛を信ずるのみならず、ことさらに儒道の比にあらざれバなり。それまで佛を誹しる者ハ曲事なりとの令もなし。いまだ聞えぬをや。もしこれらをしも罪とせバ、今ノ雑者の皇国の古へを夷島にひとしく、禽獣に同じかりしと云て、そしれる罪ハ又いかにとかせん。さて聖

人のそこハ世ゝより世代〳〵に流れて朝廷にも用ひらるゝことなるに人ゝのこゝろしゝ
いたんも滅ぶ道のことなるにつゞかれども代ゝハ既に直霊の書の流れにもとゝ
りおるゞごとくなり譬ハ君たる人を紂(コロサ)人とゝなすに思ひたるに下
の側(カタハラ)にあるに君ハそのかをばたゞしてこゝろ忠臣なりとのゝ思ひ給ふ
又一人の微臣(イヤシキ)ありしかの側なるに下の賊かをよくさとりゐたれ身殘(イヤシ)くて
君の側に近づくことなるハざるに法われ〳〵ありてこゝに告(ツゲ)たることなり
たれかくてその君の命殆(イノチホトヨ)ど危(アヤフ)きはふるりてく代微臣吾(キ)をじ見を見るふ
悲びをやむことをえざるしかの法を破りて近づきまゐりて救ひまゐらせし
代微臣ハたゞにゝやせん不たゞにゝやせん人かく殆てへることハ賊臣ハ異国のそ
なり君ハ古へのたゞに全躰なり微臣の君に側に近づくまゐらざるハ君悪しと

いにしへ下より議をすることなくしてはざる。古の人は中の一端なり。やむことを得ざる法
犯して君の命を赦すは直霊の書なり。犯せる法は重かれ。人の中は一端なり
こそあれ。赦ひなる君の命は道の全躰なり。もしその全躰亡ぶるときは。その
一端を知りて存することなくして。天下萬人ことごとく犯せば。誰か一人の微臣
のみ犯すことその罪重いふべし。雖者のみみぶ処の法をのがれ。權(カリ)
いみなるそし嫂(アニヨメ)のみ溺(オボ)るる時は。手を取りてたすくるなり(メト)へるなるべし。

○道ノ中ニ樂三ヤナガラ云ヘ

○聖人のことばは。きるを以。儒者のもてはやすは。まことにてのみ〳〵のめく泥
のみ位む魚のことばの濁(ニゴ)ることをばえてもてあそぶ。あの〳〵若るべし。

○文字ナキ御代ハ年月ヲ数(カヅ)フベキ十干十二支ノ類モナケレバ云ヘ

○此ノハ古ノ記傳の神武天皇の巻ヲ委く淨ゞおりぬぜてハ辨ぜぬ。

○タトヒ漢ノ凡俗ハアシキニモせヨ天皇ノ御心ダニ悪カラズバ。えく

○仏説ハあゞり。ゆゞく人の心乃善悪。もゝとり神の去るぎふて拂るもの

ありぬぶかしも人の悪しきを心ゆるおよりて。禍洪日神それを乗て。厄(ノリ)(ヤク)助くる

のこふそりゝ。

○千数百年ノ習ニシモ。此厄(ヤク)ヲ直シ給ハヌ直毘(ナホビノ)神コソアヤシケレ。

○天地の安窮ハ久しき間ハ(アヒダ)ゝりてハ。千数百年ゞハ只ゝバしのふどるもの成。

雖者られ成只ひめゞゝ居ゞしてゝ。ゞ百年ゞも滿(ミタ)ざる人の生涯ハのこおも

ひ比(クラ)ぶる成ハ。大きゝハ久しきゝと思ゝるゝハいとゝ小(イトサ)きを心ゆりゝ。そもゝ

近紀ニハ。千百人の中ハ。一人二人も。聖人の生れ厄(ヤクガコト)ゝること成

聖人紹人を出だして、之を伝ふる事を、代々に出だすあるは、亜毘
神の御霊なりと、やうやく正しきに還るべきにぞ。あり。されど末の世に狂委
くいつり、考へ合はざし。後の世雑者に後を直さんとするまでといへるは、
のいと多きにしるのむかし地後を立つるなりけりと思ふ癡心なり。

○守屋大連（モリヤノオホムラジ）

○こゝは基督教の伝ふる事なり。仏教多く出でて、聖人の名を助人と云ふ
ことあり。守屋の聖人のことをば嫌はざりしも、又朝野にも仏教（キヤウ）を乃
ありしも、皆その心天の下に人に禍津日神（マガツヒ）にまじりて、仏教を
又守屋ら多く仏教（キヤウ）ひて、つひに太子に滅（ホロ）ぼされ、仏教のことをいよ
仏の教ひに弘（ヒロ）まりつるも、又禍津日神の志なり。

○此国ニ善道ナケレバカナラズ他国ノ道ヲモ吾物ニ取ナシテ云〳〵

○皇国ハ善道多くばかりそ他国のそをもとり来りもとりて我国ハそだてる

善道の備たりあるものを他国のたるゝ事ハ少しるとをもて取用ひて何ハ

ハせんもとゝ人で皇国の直ぎきをきよ記ハの事ハ校つ記おもしろき松乃

大樹の多こゝるゞめく奚国の乃ハ人の家ハ庭ハ校をしゆ見系統をして

造りしてこゝる栽木のごとしゝ造り方もおもしろくハ乃ゆれどゝ心ひよ

かの事の松乃おのづゝ〳〵るをしれハ及ぶとゝ乃こゝハ乃ハ庭の栽

木ハ多くひて事の松をも校をこゝ系をもゝ人ハそ殺風景ハ乃ばや

○凡テ人ノ師タルモノハ云〳〵

○学ぶこゝ記るゝ用ゆれどこゝ乃ハ系棄ハ学べく学文盲の愚人の志

ゐざなり。も〜知でも用ゐたまひそ。代天地万物の始をもいふるまたまふ。
人のそとをもいふることたまふ。でもあんも。己が父母はいかる人の子やらん。
先祖はいづくの人ぞ〜やらん。はやく〜まうでたらんがめ〜かくても
雖者は可なりとるる。又親は孝成たくせた上なり。扶持も賜ひぬ。
用ゐたまひなりとも。こもも棄べきぞ。君は忠を勵ぶべも。加恩をも蒙ら。孫は用
ゐたまひなりとも。もも棄ぶ。系図成御照〜坐まして。可畏ぶ。親
とも先祖とも君とも仰ぎ。そるみ。もるべき。天照大神の道。癈まもること
成歌きそ。そのことを論〜示も成。用ゐたまひなりとつみ。いかる狂言ぞ。
雖者も〜大神の御德成蒙らぬ。天地のかは身をおらば。口ふまもせていふも
いふべ〜。代天地の百ふ立く。大神の御德を蒙らん限は。かりそ。ふもかる

狂言(タワゴト)ハいふべからざる生涯に大市神の市徳に蒙恩なるものあるの人も
その理を考へざるは是非なり。幸に大市の恩ふかく生涯をこゝに
あるに理解なくして狂言の毒酒に沈酔して忘れ伝ずるの徒
らなるのみならず返りて讒言(ソシリ)なすごとくハ人として狂言(タワゴト)なるべし。

○但し神ハ人ノ所為ヲ見テ吉凶禍福ノ報ヲ賀せ給ふ所なり

○こゝにハ人の所為も鼎神に不為なること決まるべし例の佛見なりもし
此海のめぐ苦をなふ者ハ吉決なるべし悪ることを者ハ凶を行ふ者
給ふ人ハ是理のまゝなるべしこれ善神の為ぶり給ふ雖者上ハ凶ハ
悪神の給ふる処といふハいふ悪をなる者ハ凶ハ決給ふ人ハ何ぞ悪神といふ
ん。なれば善人ハ凶ハ悪神の給ふる処といふことなり。

かゝるそのことなんかハ言あゝ[illegible]されぬ[illegible]さハゆゑぞ[illegible]とて悪神のまるぞのこと
とゝ[illegible]いへる[illegible]ハ雖者の況かハ分ぬ事なり。そもゝハ下の委くいへり。そも天道、
福善禍淫といへる[illegible]ハ分ぬ[illegible]ハ一文不知の児童といへ[illegible]よくも見まゝ[illegible]
[illegible]。まことかあるべきを理なり。[illegible]況を理かハ[illegible]事の
跡かつ見くいよ[illegible]ハ[illegible]ぞ[illegible]ハ悪神のなる[illegible]返て善ふる[illegible]淫り
も福[illegible]ること。古今かハ[illegible]天道天命の況ハ[illegible]至て窮
ぜり。[illegible]況[illegible]の人[illegible]ハ悪神の不[illegible]なる[illegible]況[illegible]ひて
[illegible]天を天命の況[illegible][illegible]善悪禍福の[illegible]を理のまくかハ
[illegible]をも[illegible]ハ[illegible]明解に
[illegible]伸るかてハ[illegible]も諾[illegible]

ぞ。余ハえ諾ハぬ。

○佛ノ道ニモ。ヲヲ因縁ゾト思フ者ヲバ。外道ノ部ニ入レテ。そ〳〵

○そもハ佛ノ中一部の邪解を。そ〳〵とんぢ誤まる説あり。それど佛ノ

のうにて。そこ〳〵用ゐれば辨ぜず。

○コハ鬼神ヲ祀キ招ニシタル狂言ナリ。そ〳〵モシ神代巻モそ〳〵

○ひ限ゐ。雄者のそ剣ヲ取ゲそれを。神代の巻ものも〳〵見ゐの昏ゐ〳〵。

ゐ排退て。伝取そこハ〳〵ひじとゐる。以て考ふるバ。余ゲゐとろ。実ハゐ

の底ゐハ。神とゐゐ招ゐ。それ招と思ひなゲ〳〵。ゐの古伝。以ゐて。えんと

えんゐ。神あるめくゐひなぜりとゐゐとろ。も〳〵そゐゐ〳〵バ大ゐ辨あり。まゐ

ゐ。ゐの伝ハ人のさかしら。以て考ハ作まる招ゐ〳〵。ゐ実の古伝なる

なれば和漢古今のすぢ以て引當て考へるが符を合せてるがめくふていて
かも遠へるすなりもの世中のすべの若悪の神まてその由和落ること
いてりも銀ひ命〜善人は福え悪人も禍るはられ若神の由まりぢ又悪人も
福え善人も禍ることあるはこれも悪神のまりぢまてかくのごとく世の俗へは善
神と悪神とあるなれ善人の禍福のすぢ理のまてはあ〜ぢるる。その理いと
明らかなる物況伝を設ひてら実ま神はあれ物と思ひ人あるは漢の天命の
説は聖人の作りしらかまて理を以て世方より作を設あるとある物なるなれ
理はとくあるてやはもも世中のすぢ説のまてはえあ〜ぢれなれ余天
命の説は聖人の作りしあること況まりてこれも況伝せば。そもく聖人は滅
ふ者除りれた狂限るそ世ふ悪神のまりぢなることまでをばえさとぢり

しかるに、もつぱら理にまかせて、天命の説をバ道理にかなふ合はざること多きこと、聖人もしよく悪神のたぐひなるを知りて、その説き偽りたる天命の説なりとて、世中のつねに合はざるつねなるまじきなれば、あるひ偽りとなりたる吳書の説なりけん。余伝ぞうの説排退(オシソケ)て伝ぜざるべし。余が伝ぜざるハ吳書の昏なるがゆへ、その妄作なる世中のつねに合はざるがゆへなり。故に老の公ものの古伝の説をも、漢書の天命の説へ引入れ、一ツに混じて説(トカ)んとするゆへ、余がいふところの説をもえらびえらびとりまぜこれなり。

○天地ハ活(イキ)テ坐(ヰス)ナレバ、ソノ御公ヲ以テ云ク

○例の漢文となり。天地ハ死物にして、公もたるべきものにあらぬ故、公もなりてもたるべきものなるがゆへ、思ふにハみな神の仕業なり。神の仕業なるべしとハ

天地ハ器物のごとく神ハその器物を用ふ人のごとし人もて用ハ[ツカ]ばこそ器物もてもちゐの用ハなをみがゝもてこそ用ハなを物ハあれ故に

ゆ波漢人も神のはたらきなること波ちゝなる有ふ天地ふ公ゆるもうり

思ひまぎひて其の天地の公波やゝて神[シン]たいふ名るハ名ゆがこなり

○天命ヲ説ヒテ因縁ト同ジ理ナリト思ヘルハ云

○こゝに余が言波公はゆゝるものなり仏法の因縁と天命とハ大きふ

違の異あるゆふ[illegible]ふ同じうゆゝ余がいふこゝハ善悪禍福のゆ波

佛そふてハ因縁を以て説き儒ふゆてハ天命を以て説[トケ]王といふふそ

ゆゑ波同じ理なりとハ誰[レ]いふ[illegible]天命波説ふといふも漢人仲[ナカ]

[illegible]の言なり天命の説ハもとより安作なること明らかなゆゑハ説ふまぢ

なれものをも。

○秦始皇

○秦始皇なんどの王ゐなりしも。又程なく滅しも。皆神のもてなすこと。もとより余がいふところなり。仍て雖者の輩を待んなるゐ。夷狄の乱をば人のもてなすこのみんなれてうくといつるはいかなる公はしめひでや。ゐなる雖者も。神のもてなすは即天命と一つなりと公はるゝ。余が神のもてなすなりといひなゞし。天命の況を破もてるは雖ものなるなり。天命の況は妄作なるなゐ。神のもてなすに合はざること。上件ゐ委くいつるがめし。なるは偽者は。天命の況をたゝひて立んとてるゝ。桀紂又は秦皇なんど。滅亡なるゐ。そのまく滅ひゝなるをのゝ。ものいはひゐひなくて。王位をなくるゐをばいたずらは。私なりもし

よく滅びしるゞ天命あらバ王位をはなるゝもの天命あるべきに暫ゝもせよ天
ゝ位ゝ有ふさゝ悪人ゝ有王位をバうゝへゝるゝ。もし実ゝ天命の況のかくゝるバ
ゝ乱ゝて後ゝ有聖人ゝ有命じてゝ世ゝ平ぎゝたゝめんゝるバゝ乱ゝるゝ
ゝ有ゝ善王善臣をのゝ出ゝ出して世ゝ治まるゝゝ有ゝ天ハゝ
ゝべきゝ有ゝるゝをゝ悪王悪臣ゝ出して世ゝみゝしめ民をゝ苦しゝ
ゝむゝるハゝ況ゝ雖者ゝ有ゝ天命の況窮せゝ有ゝ潛計して一味の
禍神を加へゝ其の助けゝ有ゝてゝ世ゝ勢ゝ有ゝ滅ぶゝ
いゝふゝ雖者の立る処の聖人の有ハ吉凶禍福をゝ天命ゝ
命ハ道理ゝ有ゝ相ゝ有ゝ天ハゝ禍神ゝ有ゝ

るゆへ禍神の助をなすてとしてはいふもいはんかたなく禍神のごとき邪(ヨコシマ)なる事なるべし御国の古伝をば偽りとして排斥せるものは禍神の偽へだりをしらぬ取もてるはいふもいはん禍神の偽への真なることはさとりて伝ぶるものなくば此国の天命の伝の非なることはおのづからあきらかなるべきなるをやし

○又天ノ聖人ヲ出シ出サヌトイフ理ヲ論ハンハイト可笑(ヲカシ)キ事ナリ云々

○手書畫書(テカキヱカキ)なども例ふ出せるハよく困しなりと思ひやらるる殊ふをしくおもふ笑ひぐさなるこれらの雑藝ハ必しも妙手なるべきもの

のみ国の治まるかなることもなるまじけれど天より受くふられ出さるべきなれ

伝ふるわんもいはんや雑者の海のごとくなるべき聖人なれ雑藝の事とおもし

なきにてなくてもすむまじきものにやあらん。抑いはゞ此説ハ返て天命といふ事の
備なる説様と成べし。されハもし件の類の雑藝の妙手も聖人の例にしたがふ
王世を治むる助(タスケ)となれ物なしなバ。後世にも必なかるべく。天よりこれを出すべき
理なるに。後世に妙手の出ざるハ。天命なれバなるべしや。よく思ふべし。もし又て
まして此雑藝ハ。さのミ世を治むる助ともならざれバ。なくてもありぬべき物と
せバ。聖人此出さぬ例にはしかるべきにあらじ。然れバ何(イヅ)れの世にても此説例えなる
らぬことなれバ。これを出せるハ。大きなる雑者の過(アヤマチ)なりけり。雑者なれバ。
天下乱るれバいかにても洪荒の世に立反(カヘ)るといひ。洪荒ハ世又人聖人の出ることも絶棄(タエスタ)
れて君臣の別もなしといひ。聖人洪荒の世に生れて道を立(テ)始めしといへり。もし
然らバ周の世の末戦国の時ハ。又甚しき洪荒の世にて。国内ハみだれにみだれ

ゐる物成。実ゐ天道ゐ〜ばゝ時もかゐ〜ばゝ聖人を出して。道理立直(タテナホ)し。世を治めもつゝんでしてハ飛ハぬるゐゐる。聖人をバ出さゝんしてづひゐハ秦始皇が
ゆきさ荒(アラ)みる王を〜も出して。函内成一つゐ夜(トラ)せ〜るハ天そこのゐやまもちゐやい
らん。もゝ〜ゐやまもちゐあ〜ばゝ聖人を物の用ゐハゐぬものと思ひて。出さゝ
ず〜ゐやゐ〜ゐべし〜。

○孔子ヨリ後イヨ〜道ハスタレタリトイヘルモ偽言ナリ。ゐ〜

○孔子春秋を作て。乱臣賊子懼(ルヽ)とゐやいへるハ。孔丘の後。年〜月〜ゐいよ
いよゐもゐ〜乱臣賊子の多くりし成。思ハバもこ〜ゐ懼もゐりとハ云ハ
ぬ。物ゐゐ羅者ハ。凡てゐゐの物をバ入りこもて〜ゐゐ。空言のゐ人の〜成仏て。
論成立〜ゐるハ。蛩(メト)云ハ能(ノウガキ)昏ゐ迷(ニヨヒ)て。ゐゐゐる賣茶を伝ぬるゐ〜ゐ〜ゐ

戰国のありさまなどハ伝をうけいそん曾て聖人の道おこなハるゝありさまハ天
ぢ孟軻がめきき書くをまハりて先ゝ先ゝの見しるしを一書くそのあとハ示
ちてなぐさむる者なれをやその後漢以後人ゝ多くまぢりよく治王ぢる聖
人の道ぶるゝ行ひがたおゝひハもとた実ゝその道ぶるまゝ行ふる王ハ人
ゝ多くまぢる中ゝ行ひやもれるハいさゝか行ひもれるとハ行ひがたく已が
ゝ多くゝ利のあれるハ行もれ口ゝ伝と文章だけゝ先王の道くゝひ
ゝ多くゝ実ハ已げ務手に宜き秦始皇が制度ゝもれるものゝ多きもの多
○申韓が法律モ云
○もゝ代流のめくるゝバ老荘などゝ同じく聖人の道乃一端をそこなうべ
きゝ伝をそこなれ流議もるぞやゝれハ言ゝ伝して聖人の非流いるなれ嫌ひ

申韓ハ言ヲ出シテ聖人ノ法ヲ破ラザルベカラザルの一端と思フるやうに法律
ヲ言ヒテ出さるゝ。実ハ聖人の法ヲ破ラズ。ものなるべし。

○又善人ハ必福エ悪人ハカナラズ禍ルるハイサヽカモ遠ヒナキヲ。ヘ〳〵

○史記の伯夷傳ヲもとづきるるやと云ハ例の言ヲ惑テ実ヲ見ルまゝぬ已ガ
ゐるゝひと人も多ゝんと思フるるべし。そハいと思ひ。伯夷傳のことハいふ
もあれ。そハそこ〳〵もかゝるるヲ思フ。こゝ和漢古人の実事の沒ヲ
つゞけて見よ。悪人も福え善人も禍るヲ。近くハ藤ヲ聖人と仰ぐ孔子
一生不仕合ヲしるゝ。亞聖といはれ〳〵顔回ハ貧賤なるのこと。短命ヲさ
へ〳〵て。代ヲ人子孫ヲ絶ヘて栄え〳〵るヲ。ヲ代ヲ。雖者こと〳〵をバ行ことら
解せんとなる。云の中ヲ見べしかくのごく道理ヲ遠るヲ。人眼おかるいと

なり。佛の法を信ずる人は必福を得て悪人は必禍を受ることはいとあらはなるものなり。

賣茶翁能書の名高かりしかば。よく驗ものと呼び惑つる。五味の公氣。たゞ能書のみくまはきるものを紹介して。狂人を欺きて。賣つけんとするあり。加乃伯夷傳の云はく。實に天命は誤まらずといつるは。大きなる世界の辨なり。佛人はもとより皆天命の說を信じ居るものなれば。司馬遷などは誤まりなり。佛の先づしきるものなり。

○サレバ悪人ノ幸ヲ得ルハ中〻ニ天ヨリ罪ヲフヤシ給フ由ナリ。

○此海殊に笑ふべし。佛の方便に似たり。偽ふいたる負者の公にるとなれば。やうに決るなれば。人に勧めて。乳毒を万るる始なり。もし罪をふやさしむる公なれば。天は悪を好む始と見たり。悪人を悪まば。片時も早く

殃を[illegible]へんしてそ天の正しきまことをもてなべりもとめ〳〵く幸を與へて罪過
をもとめんは側の罪なれ人の害はもなりて伊の詮もなれてづくしてをるを也

○盗跖ガゴトキ盗ノ幸アルハ云〳〵

○人の羨むと羨まぬ〳〵はもと論を立てるもまけをしみなり盗跖のごと
ならば古今は悪人の福えてるもあしいと多〳〵もとより悪人なんは天下後世
の人は悪まるるをもいとふべきなれどもこれが人をもて羨まんとてもまた
福はいとうもかるることは〳〵なれども盗跖が幸の類はまこの幸にあ〳〵
とてもなるべき幸はまこの幸と偽の幸とそこ二つなるべきはなれ〳〵もこと善人
乃分まこと悪人の幸はまこの幸はなれ〳〵と思ひて悪むとも其の人のある幸まこ
と偽の差別なるあとを〳〵王莽曹操が位をはなるる虎狼の殿内は立千

あるかりといふも同じことなれども虎狼なりといふは空論王位は故なるは実なり
りとあるとひ佛老はいかゞとそ〳〵まそ虎狼なりといひても王位は二つもなれ
ども芽操が受る福まは損なれもの況天を何なるとある虎狼なる王位をなくなる
べいとく公故なれども雖者の説はあるとへが吏人の盗を捕へく刑りを
行はゞ〳〵て返て賞をなくとへていつるやう盗賊賞をるはまの賞はなくば
又刑まはあるなはゞるまた世の人は悪まるゞ刑なりといはんがめ〳〵人あるとも
諾なりといはせし

○天ノ御公ニ合フ者ハ賤夫モ天下ノ主トナリ上リテ云〳〵

○君の道を奉事なりて己レ天の道に合フといひて民を欺くは添道聖人乃
姦智邪術なり君御道ハ天壌を窮の神勅乃まくはいく万代を経ぬとも

君ハ君臣ハ臣ホ〳〵て御位の動くことなく幸ひかくる先でこれは国ホ生じ
なゞく君臣の道ゑゝゆゑびみぐりるる外国の悪習俗を呪びそるむいいるる
辭なるや

○或ハ毒茶ヲ以テそゝ

○けゝゑゝ人そよくいかくれり聖人のそこハまことホ毒茶なるが孔ホこそ服も
もゝ公況傷害ちるる至毒なき茶ハいふ用ひてゑ人を害ちるることなりれば
果〳〵(ハタ)そ用ふる人のこれ罪なゝんやも

○聖人ヲ貶スノミナラズ保(アハ)セテ天皇ヲシモそゝ

○けるハ既ホ上ちるる人をいぎそも辨じくるがごとく

○上代ノ耶行(シブザ)トテモコトゞクまゝなノてゝナリシトモイフベカラズそゝ

○まことの道とは、産巣日神の御霊ふたりて備へおはして生まるるまことの心をいふ。
てこのまことの道は、智なるもあり、愚なるもあり、巧なるもあり、拙きもあり、
善もあり、悪きもあり、さまざまにして、天下の人ことごとく同じきものなり
ゆゑにされば神代の神たちも、皆ひとしく産まれ給へるなれば、おのおのそのまことの
ふたりく行ひなるなり。然れども、雖其智巧の事などは、まことの行ひ
あるべきことなるは、誤まり、さて余が外国の学問あるべかりけるく、天下の人
まことの道を失ひ、あるいは人或は仏に、或は儒にそれを伝へて、のちのそのの
ことばをしるして、只ものは学問せざる者もそのなりひわ化せしめ、物をも生まれ
つれしめる心をはゆゑざるべし。その一端を挙ていはく、或は仏の説は溺
て、父母妻子を棄て出家をし、或は儒の説は惑ひて、君を狂ひ、ぞ草

あるごの出来るるあるひ是をあり。もしかもるべく善ゆるものも悪ゆるあれ生
きつれるゆる公況変てもうつるゆ皆まの分を失ふべし。

42/
091
M
1

三重県立図書館
140012303